

アメリカ留学が残したもの

国際文化学科 竹田眞子

私は以前から留学への希望が強く、参加を決める時も迷いはありませんでした。留学に行くまでの様々な準備や現地に到着してからの生活は大変でしたが、留学によりアメリカという国の言語や文化を自分自身で体験できたことは、これからの自分の人生においても良い経験になったと思います。

長いフライト時間を経てカンザスの空港をでたときは、本当にアメリカに来たのだという実感がわきました。それからバスで移動し現地の大学に着いたときは夜だったので、敷地内がどうなっているかよく分からないまま寮を紹介されました。今年は現地の大学側の手違いもあり、寮が Franken Hall と South Complex に分かれていて私は South Complex の方でした。寮にはそれぞれの階ごとに RA (Resident Assistant) という階のリーダー的な役割を担う生徒がいて、私の RA は Amanda というアメリカ人でした。その Amanda に寮のシャワールームやトイレのシステムなどを説明されたり部屋まで案内してもらったりしたのですが、Amanda の話す英語のスピードが速くて何を言っているのかほとんど聞き取ることができませんでした。生で現地の人英語を聞いた初日だったので、本当にこれからこんなに速い英語を聞き取れるようになるのか不安になったのを覚えています。次の日からはガイダンスやクラス分けのテストなどがあって休む暇がありませんでした。アメリカに着いてから 2 日目までは時差ボケで夜中に起きて眠ることができなくてそれから 1 日中活動しなければならなかったのでほとんど体力が尽きていました。学食の方も初めの 1 週間は脂っこい食べ物や食材が合わなくて毎日お腹を壊していました。

私はルームメイトが日本人ではなく、まだ部屋にいなかったのでどんな人が来るのだろうと期待も不安もあり、何日か経ってルームメイトが部屋に来て、アメリカ人ということが分かりました。私は、アメリカ人はみんなフレンドリーで進んで話しかけてくれる人たちだと思っていましたが、実際私のルームメイトはそんなに話しかけてくれる人ではありませんでした。同じクラスだった韓国の女の子にこのことを話したら、その子の前のルームメイトもあまり自分から話しかける人ではなかったみたいで、みんながみんなフレンドリーではないのだと知りました。このことから、自分の中で抱いていた想像と現実が違うことを突き付けられ、実際に体験するまで現実は分からないのだと学ぶことができました。それぞれの生活習慣や文化の違いから気を遣うこともありましたが、私の宿題を快く手伝ってくれたり分からないところを教えてくれたりして、私がルームメイトと一緒に過ごした 4 か月は私にしかない体験になりました。



アメリカに着いて約1週間で授業が始まりました。私たちの授業は日本の大学より1コマの授業時間が短かったです。授業では他の国の人も積極的に授業に参加して置いていかれないようについていきました。授業内では3人1組のグループで話し合うのがほとんどで、そのときの話題ごとに日本とアメリカの違いだけではなく他の国とも日本がどのように違っているのか気付くことが出来、新たに他の国について知ったことが増えました。授業の内容については途中で私たちの先生である Mrs. Hardee や Mrs. K が説明したことに対する質問はあるか聞いてくれたり、私たち自身も分からないことがあったらその時々で質問できたりしたので分からないところを放置することなく次に進むことができました。しかし、毎日次の日にある何かしらのテストと、それぞれの授業の宿題に追われていました。



た。Reading & Writing の授業では毎週 Article Report という新聞記事に関する宿題が出て、この宿題が私にとっては一番の重荷でした。Listening & Speaking の授業の宿題では Twitter の宿題がありました。Twitter の宿題は私たちが毎週必ず1つ行くイベントでの様子をあげたりするもので、中には大学の学長との写真をあげるという宿題もあって、この宿題のおかげで大学の学長と写真を撮ることができました。日本ではあまりこういった宿題はないと思うのでアメリカならではの宿題だと思いました。Grammar の授業ではその日習った文法の復習や自分で文を作成する宿題がほとんどでした。アメリカの授業制度は宿題の量や授業時間、1セメスターでも前半と後半に分かれていて途中で大きなテストがあったり、成績の評価の仕方がテストだけではなく授業態度や宿題をやっているかなど細かかったり、日本と大きく異なるのだと知りました。私たちは授業のほかに CP (Conversation Partner) というのがあって週に2回 Northwest の大学生と話す時間が設けられていました。内容はそのパートナーそれぞれで私は日本や新潟の話から就職のシステムや政治の話など少し難しい内容の話もしました。初めはやはりパートナーの言っていることが分からなくて何度も聞き返したりしていましたが、話が分かるようになっていくと楽しくなっていくと、CP の時間もこの留学において大切な時間でした。

前述したように、私たちは毎週必ず行かなければいけないイベントもあり、Halloween や Homecoming、Thanksgiving holiday などアメリカで様々な行事を体験しました。それらの中でも私が特に印象に残っているのは Halloween と Thanksgiving holiday です。Halloween のイベントでは自分たちでかぼちやを彫ることができて、自分の彫りたい顔が彫れてとても楽しかったです。でも、実際かぼちやを彫る作業をなめていた部分があって彫るのはとても大変でした。かぼちやの種を取り除くときは感触が気持ち悪くて、

前述したように、私たちは毎週必ず行かなければいけないイベントもあり、Halloween や Homecoming、Thanksgiving holiday などアメリカで様々な行事を体験しました。それらの中でも私が特に印象に残っているのは Halloween

と Thanksgiving holiday です。Halloween のイベントでは自分たちでかぼちやを彫ることができて、自分の彫りたい顔が彫れてとても楽しかったです。でも、実際かぼちやを彫る作業をなめていた部分があって彫るのはとても大変でした。かぼちやの種を取り除くときは感触が気持ち悪くて、



硬い皮に好きな顔を彫るのは難しくて力が必要で終わったときはへとへとでした。そのかぼちゃは持ち帰って自分の部屋の近くの廊下に飾っていたのですが、思っていたより劣化が速くていつのまにか消えていました。前から Halloween のときにはかぼちゃは彫りたいと思っていて実現したのでうれしかったのですが、同時にもう 2 度とはやりたくないと思いました。実際の Halloween の前日にはみんなで集まるイベントがあってその日はほとんどの人が仮装していて、写真を撮り合ったり、ゲームをしたり楽しい 1 日でした。Halloween 当日はトラックの後ろに乗って大学から少し離れたところにある牧場の中を見て回りました。あんなに近くで牛を見ることは今後を含めそうないと思います。街の Halloween のイベントとしてはメリービルの子供たちがいろんな店にお菓子をもらいに行くイベントがあって、私はそのイベントにホストファミリーから誘われて行くことが出来ました。私のホストファミリーは子供たちもお母さんも一家全員でアベンジャーズの仮装をしていて、一緒にいる私も楽しかったです。いざ街に出てみると子供たちがいろんなキャラクターや魔女などの仮装をしていてとても可愛かったです。兄弟で仮装をしていたり、私のホストファミリーのように一家全員で仮装していたり、その模様は各家庭で特徴が違ってさすが本場の Halloween は違うなと思いました。



Thanksgiving holiday はアメリカ留学の行事の中でも最も印象深い行事の 1 つでした。アメリカの家庭にお邪魔して約 1 週間、一緒に過ごすことはアメリカ人の生活習慣や日本の家との違いを見つけられる良い機会でした。私はホストファミリーの事情により別の家にお世話になったのですが、快く迎え入れてくれて楽しく過ごすことが出来ました。その家伝統のシュガークッキーと一緒に作ったり、フットボールのゲームを観戦したり、Kansas City に行って一緒に日本食を食べたりして、とても充実した日々を過ごすことが出来ました。クリスマスツリーと一緒にデコレーションしたときはアメリカのクリスマスツリーのオーナメントにはその家の記念日を祝うオーナメントがあって、それらをツリーにデコレーションすることによって自分たちの人生を振り返りながらクリスマス祝っているということを教えてもらいました。さらに、現在は煙突がない家もあるのでサンタクロースが玄関から入れるようにサンタクロース専用の鍵を玄関にかけるといった新しい伝統が生まれていることも教えてもらいました。可愛いものから、ユーモアもある様々な種類のオー



ナメントやその家の歴史を語っているオーナメントを大きいツリーにデコレーションできたし、私がお世話になった家の親戚の家のツリーもデコレーションすることが出来たので 2 度ツリーのデコレーションを楽しむことが出来ました。他にもクッキーを保存するときにパンと一緒に入れることや、アメリカの映画の種類の言い方、その家の食事の前の挨拶など **Thanksgiving holiday** を通して本当にアメリカの家庭についていろいろなことを学ぶことが出来たし、それらを吸収できたと思います。 **Thanksgiving holiday** の後も親戚の家の方に街のクリスマスパレードやイルミネーションを見に連れて行ってもらったりして本当にお世話になりました。ホストファミリーの家族とも私たちが帰る前に一緒にご飯を食べたりクッキーをデコレーションしたりして楽しい時間を過ごさせてもらいました。私の関わった家族の方々は全員やさしくて **Thanksgiving holiday** も他の食事などの機会も、その家族の方々のおかげで有意義な時間を過ごすことが出来たので本当に感謝しています。この体験はアメリカ留学の中でもとても心に残りました。



アメリカに着いてから初めのうちは、食も合わず、現地の人が話している英語も聞き取れなくて不安ばかりが募っていく一方でした。でも、留学の最後の方に **Amanda** と話す機会があって、あんなに聞き取ることが出来なかった **Amanda** の英語が聞き取れるようになっていたときは力が身に付いたのだと実感できて本当にうれしかったです。この留学で体験したことは楽しいことばかりではなく、大変なこともありました。アメリカという異国で過ごした 4 か月を次につなげることが出来るかは自分次第ですが、この 4 か月は決して無駄にはしません。留学中は現地の大学の先生や生徒、クラスメイトやルームメイト、メリービルに住んでいる人たち、**NUIS** メンバーなどたくさんの人に支えてもらったからこそ、有意義な留学にすることが出来ました。留学前の準備や費用など先生方や学務課の方々、家族の支え無しではこの留学は成り立たなかったと思います。アメリカでの 4 か月の留学は、私の中で一生残る貴重な経験となりました。留学前から日本に帰ってくるまで支えてくださったみなさん、本当にありがとうございました！